



見えない「翼」

おおさき かなこ
大崎 佳奈子

在中華人民共和国日本国大使館・經濟部

今年6月に行われた北京市の大学入試の作文テーマは「私には見えない翼がある」だった。流行曲の曲名からそのままとったもので、問題を作成した教授の中にも音楽の好きな教授がいたのかなあと勝手に想像した。テーマから読み取ると、私たちにはみな翼があるらしい。一体どんな「翼」があるのだろうか？できることなら将来の希望にあふれる若者みんなに翼があってもらいたいものだ。

今年、大卒の就職がひととき厳しいと言われるのは中国でも同様だ。近年、高等教育を強化する中国は、大学を増設し続け、1949年には206校だった全国の大学数は現在2300校にも跳ね上がった。今年は全国で610万人もの卒業生が社会へと羽ばたいていったが、去年就職できなかった既卒者がすでに100万人いるので合計710万人の新卒・既卒が就職活動をする事となる。今までは大卒といえば職場では幹部候補生で、官公庁、外資系企業、有名企業に就職する者が多かったそうだが、金融危機の影響も懸念されるこのご時世、就職先も多様化しており、就職先が見つからない学生は大都市を離れ、農村の幹部になる人もいれば、軍隊に入る人もいるらしい。この国では大卒＝エリートという概念が、大きく変わりつつあるのかもしれない。

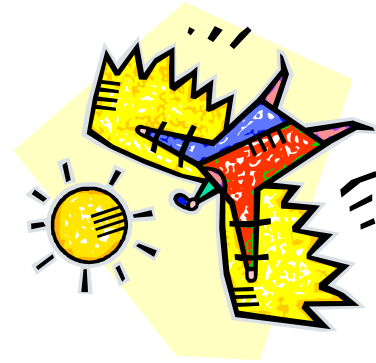
とはいえ、北京市の学生は裕福になったので、北京に限れば、実際は急いで仕事を探さず、自分

の条件にあう仕事をじっくり選ぶ卒業生もいるとのこと。北京の受験生は「翼がある」という作文を書きながら、4年後の自分の将来を考えたりしたのかもしれない。

「翼」を持つ人というのは北京の戸籍を持つ北京の学生かもしれない。北京市内の大学を受験するとき、北京戸籍の学生と市外戸籍の学生では合格に必要な点数が違うからだ。北京戸籍の学生ならば低い得点で入学でき、市外学生はより多くの得点がないと入学できない。北京市内の学校に通うには、都市戸籍があるかないかは決定的に違う。大学に限らず、農村戸籍の子どもたちは義務教育であっても北京の公立学校に入ることはできない。出稼ぎ労働者の子どもたち専用の私立学校があるくらいだ。北京に生まれただけで入試も楽ちん。北京の子どもたちには「翼」がある。

ただ、今ではずいぶん「翼」の範囲も変わってきた。以前は不可能だったが、今は北京で働く農村戸籍の人でも北京市の社会保険にも入ることができるようになった。進学以外は農村戸籍でも全く気にならない、とは農村出身で北京で働く中国人同僚の話だ。

違う「翼」を持つ人たちもいる。少数民族の大学受験者だ。大学入試試験では、少数民族には特別な加点があるのだ。中国の少数民族の中には、中国語（普通話）と言語学的にも全く異なること



ばを持つ民族も多い。彼らにとっては外国語と言えるほど異なる言語で受験するのだから、多少の加点はあって当然、むしろ多少くらいでは足りないくらいだ。しかし、中国の全人口の90%以上を占める漢族からみたら「翼」がある、というふうに見えるらしい。「少数民族は優遇されている」と不公平感を持つ漢族がほとんどだ。

今年の大学受験では少数民族の「翼」を悪用した人が現れた。重慶市の入試試験でトップの得点を取り、「状元」と一度は讃えられた何川洋くん。実は彼は漢族なのに、少数民族の土族と申請して受験したのだった。本人も頑張って勉強しただろうし、また少数民族の加点も効果絶大で、市でトップの成績を取ってしまったがために不正がばれた。何くんの両親は公務員かつ共産黨員。両親は党籍を剥奪され、仕事を追われ、何くん本人は失格となった。重慶市だけで30人以上のニセ少数民族がいたそうだから毎年こういう輩が出るのだろう。何くんの偽物の「翼」は折れてしまったようだ。

7月5日、新疆ウイグル自治区の区都ウルムチで大規模な暴動が起き、現在のところ約200人もの人々が亡くなり、1700人以上がケガをした。事件の真相は未だ全くわからない。偶発的な事件なのか。それとも「外部の勢力によって扇動され、計画的に起こされた事件」なのか。

ウイグル族はスンニ派イスラム教を信仰し、トルコ系を祖先とする民族。中国では約970万人が暮らしていると言われる。古くからシルクロードの地に暮らすウイグル族は、今や故郷に住みながら少数民族として扱われている。大都市ウルムチは漢族の流入が進み、都市部だけを見れば明らかに漢族の方が多く住んでいる。街中の看板もウイグル語より漢字のものが圧倒的に多い。

ウルムチの7.5事件をそれぞれウイグル族、漢族と語るとき、必ず出てくるのが「漢族は～」「ウイグル族は～」等のお互いを非難することはばだ。私は双方の主張を聞いて、なんとも悲しい気持ちになってしまう。相手を非難するだけで、決して理解しようとせず、相手を思いやることは全くといっていいほどないからだ。ウイグル族は漢族に支配され、あらゆる差別を受けていると思っているし、漢族はウイグル族などの少数民族は一人っ子政策が緩和されるなど政策的に優遇されすぎていると思っている。

「私は見えない翼で、少数民族も漢族も仲良く平和に暮らせる場所に飛んでいきたい」と作文を書いた受験生は北京にいたのだろうか。今回の事件を目撃した漢族・少数民族の子どもたちは、民族間の終わりのない憎しみの連鎖をどう見たのだろうか。